

令和5年度「尾道版『学びの変革』推進事業」に係る
研究推進実施計画書

尾道市立因北中学校 校長 向井昌行

1 学校経営構想 (別紙)

学校経営目標

心豊かで自ら求めて学び生き生きと活動する生徒の育成

スクールミッション

組織的な学校経営を生かした小中連携教育による主体性・表現力の育成

目指す児童生徒像

- 自他を尊重する生徒
- 進取の精神に満ちた生徒
- 自主的・自律的に行動する生徒
- 地域に誇りを持ち、社会に貢献できる生徒

2 教育研究構想 (別紙)

3 研究の概要

(1) 研究主題・副題

- 研究主題 学びを深める
- 研究副主題 表現力を高める活動の充実を通して

(2) 研究主題の設定理由

○本校はこれまで、因北ナビゲーションに基づき学習規律の確立を図るとともに生徒相互の共感的理解を深める取組を進めてきた。また、生徒に自己存在感を味わわせるとともに学力向上を目指して『学びを深める』を研究主題として、知識・技能の定着を基盤とする授業改善を図ってきた。その成果として、昨年度2月に実施した標準学力調査と全国平均と比較した結果、1年は国語が63.7%(全国平均+4.7)、数学が58.8%(全国平均+7.9)、英語が62.1%(全国平均+10.7)、2年は、国語が70.4%(全国平均+1.9)、数学が55.9%(全国平均+5.4)、英語が53.7%(全国平均-0.5)であった。他の教科は全国平均をやや下回った。「自分には良いところがある」と思う生徒の割合は昨年度7月度74%から1月度78%であり、依然目標値(80%)に達していない。また、不登校の生徒数は、令和4年度時点で2年生は6名、1年生は5名と学年全体の10%程度と高い割合で、課題が大きい。

そこで、本年度も生徒指導と教科指導が一体となった指導を教育研究の基本に据え、これまで本校が大切にしてきた「互恵的な学び」を継承しながら、既習事項の振り返りや家庭学習の充実も図り、基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指す。

さらに、「広島県で15歳の生徒に身につけておいてもらいたい力」の一つでもあり、また、因北中学校校区9年間でつけた資質・能力の一つでもある「表現力」を高める活動を通して、主体的な学びを促し、事象を多面的・多角的にとらえる力やコミュニケーション能力を育み、「深い学び」へと学びの質を高めていくことを目的とし、本主題を設定した。

(3) 研究のねらい

○これまでの研究成果を踏まえ、互恵的な授業づくりを継続し、さらに、表現力を高める活動の充実を通して、事象を多面的・多角的にとらえる力やコミュニケーション能力を育むことで、個人思考の質や話し合いの質を高め、深い学びを創造していく。

(4) 研究仮説

○表現力を高める活動を通して、生徒の主体的な学びを生み出す授業づくりを行い、深い学びを創造することによって、生徒の学力も向上するのではないか。

(5) 研究内容（研究の方向）

- ① 各教科の授業研究で「表現力を高める活動」場面を設定し、各教科や単元に応じた指導計画を作り実践する。
- ② 一人1単元以上、研究主題に基づく単元開発を行い、学習指導案を作成する。その際、生徒が主体的に学びを深めるために導入の工夫を図る。

(6) 検証の指標

- ① 「授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり広めたりしている」生徒の肯定的回答
- ② 「ICTを活用して、学びが深まっている」生徒の肯定的回答
- ③ 「授業がよくわかる」と答えた生徒の肯定的回答
- ④ 標準学力調査、全国学力調査での全国平均以上（5教科，4月・1月）

(7) 到達目標

- ① 「授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり広めたりしている」生徒の肯定的回答 80%以上
- ② 「ICTを活用して、学びが深まっている」生徒の肯定的回答 90%以上
- ③ 「授業がよくわかる」と答えた生徒の肯定的回答 85%以上
- ④ 標準学力調査、全国学力調査での全国平均以上（5教科，4月・1月）

4 指導・助言者

氏 名	所属・職名等	備 考
古賀洋一	島根県立大学・准教授	

5 研究計画

月 日	研 究 内 容	講 師
5月31日（水）	校内授業研究	古賀洋一先生
7月12日（水）	校内授業研究	古賀洋一先生
9月 6日（水）	校内授業研究	市教委指導主事
10月4日（水）	校内授業研究	市教委指導主事
11月10日（金）	公開研究会	古賀洋一先生 市教委指導主事
1月31日（水）	校内授業研究	古賀洋一先生

別紙様式 1

令和5年度「尾道版『学びの変革』推進事業」に係る
研究推進予算計画書

尾道市立因北中学校 校長 向井昌行

費 目		金 額	明 細
節	細 節		
報 償 費	講師報償費	① 13,800円	①島根県立大学 古賀洋一准教授(7月) 4,600円×3時間
		② 13,800円	②島根県立大学 古賀洋一准教授(9月) 4,600円×3時間
		③ 18,400円	③島根県立大学 古賀洋一准教授(11月) 4,600円×4時間
		④ 13,800円	④島根県立大学 古賀洋一准教授(12月) 4,600円×3時間
	報償費小計	59,800円	
旅 費	講師旅費	① 16,600円	①島根県立大学 古賀洋一准教授(7月) 松江～尾道
		② 16,600円	②島根県立大学 古賀洋一准教授(9月) 松江～尾道
		③ 16,600円	③島根県立大学 古賀洋一准教授(11月) 松江～尾道
		④ 16,600円	④島根県立大学 古賀洋一准教授(12月) 松江～尾道
視察旅費	0円		
旅費小計	66,400円		
合 計		70,000円	差額56,200円は本校で支払います。

※報償費、旅費合わせて7万円以内の予算内で計上してください。